

ヒノキ間伐材を利用したナメコ栽培

林業試験場

【研究のねらい】

農山村に定住している方々の副収入として、地元の資源を活用した副産物の栽培技術の開発が求められています。そこでヒノキ原木でも栽培できるナメコの栽培技術を確立することで、山林に放置されている間伐材の有効利用や山村地域の活性化を目指します（写真）。

【研究の成果】

- ①ヒノキ栽培では市販されている駒菌の違いにより、収穫量に差が出る場合があることがわかりました（図1）。
- ②植菌をする際にヒノキの生原木と乾燥原木（2ヶ月乾燥）を分けて行ったところ、1年目では生原木の方が収穫量が多く、2年目では収穫量に違いは見られませんでした（図2）。
- ③ナメコ栽培の適木とされているサクラ原木とヒノキ原木を比べたところ、サクラ原木の1本当たりの収穫量（360g）に対し、ヒノキ生原木は約6割（215g）でヒノキ乾燥原木は約4割（148g）となりました。

【成果の活用面・留意点】

- ①初期の段階ではヒノキの生原木の方が収穫量が多いため有効です。
- ②ヒノキ原木はサクラ原木に比べて収穫量が落ちますが、原木の入手が容易にできます。
- ③植菌後3ヶ年の調査であり、原木の寿命及び総収穫量を調査する必要があります。

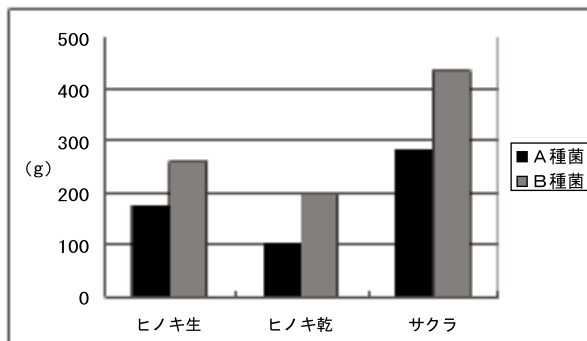


図1 種菌別発生量

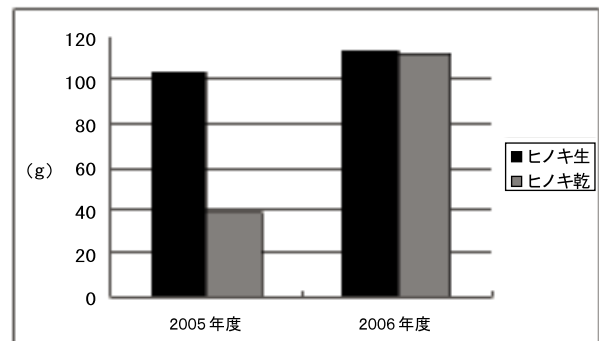


図2 原木状態別発生量



写真1 ヒノキ間伐材に生えたナメコ



写真2 産品販売所で袋詰めされたナメコ

(問い合わせ先 TEL：0739-47-2468)